

新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（第9回）
議事要録

日時 平成22年12月20日（月）午後7時06分～午後9時08分
場所 クリーンセンター3F 見学者ホール
出席 小澤紀美子会長、水谷俊博副会長、村井寿夫委員、藻谷征子委員、
塩澤誠一郎委員、石黒愛子委員、木村文委員、千綿澄子委員、島森和子委員、
高石優委員、飯村雅洋委員、山崎君枝委員、平田昭虎委員、岡田敬一委員、
高橋豊委員、渡部敏夫委員、事務局（木村浩クリーンセンター所長他）
コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他）
欠席 なし
傍聴 なし
資料 1. これまでの検討のまとめと今後の課題(骨子)
2. 「白煙防止装置を止める実験」についてアンケート及び配布資料
【委員提出資料】
取りまとめに向けて 低炭素社会の実現に向けたモデル地域としての取り組み
かごしま環境未来館 延藤先生のおもしろいまち話

1. これまでの検討のまとめと今後の課題（骨子）について

事務局より「これまでの検討のまとめと今後の課題（骨子）」について説明。

引き続き委員より、「取りまとめに向けて」と題した資料について説明。委員から出た様々な提案について、「出来る・出来ない」ではなく、全て受け止めたうえで、時間軸で整理し、その提案の必要性を明確に示すようなまとめ方をすべきと提案があった。さらに、「低炭素社会の実現に向けたモデル地域としての取り組み」と題して、地域の空間を最大限利用し、再生可能エネルギーを生産し、それをより地域全体で効率的に使用し、電力発電・供給のネットワークなど地域の二酸化炭素削減への貢献を推進する必要があるという提案があった。

また、他の委員よりクリーンセンターが市民のライフスタイルに何らかの影響を与える施設になるために、リデュース、リユース、リサイクルを通じた価値の変換について提案があった。

- ・ **会長** 委員提案にある電力ネットワークは実現する可能性があると考えている。学術的なレベルでのスマートグリッドの考え方は多くあり、ニューヨークなどでも省エネ技法として実践されている。基本的に委員提案の通り、意見を受け止めたうえで、方向性をきちんと出すことは重要だと考える。ペットボトルのキャップを分別して収集しているが、そのリサイクルのための費用を誰が負担するのかが問題になっている。それが新たな価値につながってくると思われるので、皆さんに考えていただきたい。

会長より「かごしま環境未来館」について紹介。市民への啓発施設、エコセンターとしての展示法等について説明。

- ・ **委員** 取りまとめの段階で委員の要望を仕分けすべきでないという意見には賛成である。委員会もプロセスを重視し、「少数意見も付記する」という書き方がされており、協議会でも共通することは賛成である。昔のクリーンセンターの資料など少なくなってきたおり、それをまとめて皆が利用できるようにすることは重要である。また、NTT 研究所には緑町三丁目の一員として貢献していただきたいと考えている。周辺地域の 1 軒ずつが冷暖房を使用できるようなシステムを将来計画の位置づけをしていくことで、より実現の可能性が高まるのではないかと。
- ・ **会長** 委員からの提案の中で、時間軸に落とし込めないものについて取り扱いを考えていたが、全て記載していくという方針でよいと考える。ソフト面、運営面はかなりアイデアが必要であり、周辺まちづくりの方策に運営方式も記載できれば最良であるが、具体的な記載はなかなか難しい。ハード面ばかりでなく、ソフト面をしっかり議論して、知恵を出していく取りまとめの文言を探っていく必要がある。
- ・ **委員** 私の孫も含めて、物が溢れる環境で育つとその処理をどうすれば、自分にとって有効なのか分からなくなってきた。各委員が、「あれが欲しい、これが欲しい」と全てを検討するのもよいが、根本的に何が必要なのかシンプルに各家庭、地域で考えていく必要があるのではないかと。一度持ってしまうとなかなか捨てられないアイデアなどあると思うが、生活にとって何が一番必要なのか優先順位を付けておかないと、様々盛り込んだだけのごみの山のような施設になってしまう。
- ・ **委員** 協議会の中で話し合った事項については、来年度以降も継続して検討していく内容であり、新施設の運営協議会のあり方についても、この協議会で議論しておく必要があるのではないかと。組織が違ふと考え方も違ふものであり、団体は団体で別々に協議会を作るべきであると感じている。将来的な構成組織は、しっかり記載しておく必要がある。
- ・ **会長** 文案を次回に提示いただきたい。
- ・ **副会長** P.8.において、「現行のストライプデザインを継承し…」と記載があるが、個人的には、ストライプに限定する必要はないと考えており、「景観に配慮したデザイン」といった表現に留めておくべきではないかと。また、エコプラザとエコセンター・事務所棟のハードのつながりはないということであるが、両方を見学いただくような活性化した運営も考えられるため、図としては点線などでつないでおいてもよいのではないかと。ソフト的な話では、イベント広場の使い方について、十分な議論がなされていないと考えている。今後議論を重ねることが、このイベント広場の意義が見出されてくるのではないかと。iPad などインタラクティブなプログラムを使用し、そもそも大きな場所を使用しないという考え方もできる。

- **会長** イベント広場については、いろいろと意見を出していただきたい。アースセンターというイギリスの施設は、既存の事務所をあまり補修せずにそのまま使用している。副会長には事例を調べていただきたい。アースセンターは、過去と現在と未来が一直線上にあるというコンセプトが明確になっている。そのあたりも副会長には調べていただきたい。
- **委員** 運営方式について具体的に記述するのは難しいと考えている。ただアイデアレベルでは例として記載してもよいと考えている。
- **委員** 地域でやっている「子どもがつくるまち」というイベントで、地域通貨を子どもたちが稼いで遊びをするという祭りをやっている。お金を稼ぐというよりは、価値はあるがお金には変えられないものを労働の対価としてもらえるという考えで、行っている。
- **会長** ボタンには、大きな価値がある。ボタンをアレンジして、アートにつなげるなど大人とともに考えていくと、その次のステップが見えてくるのかも知れない。我々とは違う価値を生み出そうとしている若者は数多くおり、イベント広場ではなく、アイデア創出広場となるのかも知れない。
- **委員** ボタンは各家庭に膨大にあり、そういうものが捨てられているときに、個人的にはワクワクした気持ちになる。そういった次につなげられるようなことを一緒にできる人が多くいることはとても楽しいことである。緑町パークタウンは、建て替え前は武蔵野緑地団地といい、その時の写真展を実施した。個人個人の写真に過ぎないが、集めると地域の魅力がにじみでる素晴らしいものであった。写真だけでなく、絵なども趣があってよいと考える。
- **会長** 議論を聞いていると倉庫類がかなり必要になるのではないかとと思われる。ただ色々な思い出を共有していくということは、非常に大事なことであり、そういうことの見える化が重要である。私は西宮のこども環境活動支援協会の代表理事をしているが、子どもたちがエコ活動を行うとエコポイントがもらえ、それをお金に換算し、中学校校区単位でのまちづくりのための費用にできるという活動を行っている。
- **委員** 地域整備において、緑町コミュニティセンターが大きな問題ではないかと考えている。緑町一丁目、二丁目、三丁目と相談し、市へ提案したいと考えているが、テニスコートや野球場が現状のままという計画であるのか。また都営の空き地があるが、その利用法については十分検討し、地域に有効に活用していただきたい。
- **会長** 資料に「緑町コミュニティセンターを拡充するのは賛成だが、場所の移動は望まない」とする委員提案があり、分館化、バリアフリー化なども含めて事例として受け止めておいていただきたい。都営住宅跡地は行政との絡みで考えるよう記載することは可能である。住民が行政へ意味ある参加し、環境情報を提供いただくということがヨーロッパでは議論されているが、日本ではほとんど議論されていない。武蔵野市は、丁寧に行っている。煙突のデザインについても従来のデザインからかけ離れたものにならないというような書き方を副会長に検討いただきたい。

- **委員** 「場所の移動を望まない」と言っているわけではない。委員提案の「移動」という提案を踏まえて、緑町一丁目、緑町二丁目とも相談しようと考えていたが、事務局から移動は難しいという話があり、対応を考えていた。一応、移動ということを前提に議論していこうと考えていた。
- **市委員** 野球場、テニスコート、コミュニティセンターは「その配置を原則として」と市の方針として提示している。変更できないわけではなく、現状の市の方針としては提示している通りということである。事務局が述べたとおり、第五期の長期計画の中で一番の問題は、コミュニティの問題である。コミュニティの問題は、協議会で結論を出すのではなく、やはり長期計画の全体の話の中でその位置づけを議論していく。35年前のコミュニティ構想からの見直しであり、もう少し大きなレベルで議論を行っていただく必要がある。
- **委員** 再生可能エネルギーネットワークという提案があるが、詳細は不明であるが、考え方は素晴らしいと思う。これまでの議論では、クリーンセンターが主体となって周辺住民を集めていたが、今後は市民が一緒になってクリーンセンターから周辺へ発信していくような考え方が必要である。また、野球場は防災時の避難場所として利用する必要がある。新施設の建設時に資材置き場とならないように広い場所は空けておいていただきたい。
- **市委員** 当初は建設時の資材置き場として野球場を使用しなくてはならないと考えていたが、その必要性がないようであるため、野球場は使用できるということで説明を行っている。また、災害時について武蔵野市としては、各学校を一時避難所として指定している。そのため、野球場のグラウンドではなく、学校に避難していただきたい。野球場は、災害時に道路などに溢れた瓦礫などを焼却するまでの保管場所として使用する想定である。東京都として、このエリア全体を広域避難場所に指定しているが、武蔵野市としては学校に避難いただきたい。
- **委員** イベント広場の使用法に関連し、現在バラ園の芝生広場は天体観測に非常によい場所である。環境や教育活動の一環として、開放するなどできるのではないかと。
- **会長** 星空が見える、すなわち大気汚染を防止するというので、自治体を選んで実施している施策がある。非常に大事な活動である。照明の仕方や暗がりであるために事故への責任という課題を含めて、ソフトを検討する必要がある。
- **委員** 「場所の移動は望まない」というのは緑町三丁目から出た意見である。この意見については、取消とせずもう少し議題として残しておいて欲しい。
- **会長** 3月末のまとめにおける記載はどのようになるか分からないが、意見があったと記載は行う必要がある。その他意見についても併記を行っていく。コミュニティセンターのあり方の議論についても武蔵野方式で住民参加を大切にしていきたい。その他意見についても事務局の方に伝えていただきたい。
- **委員** 繰り返しになるが、野球場とテニスコートには全く手をつけないのか。

- **市委員** 現行の配置を前提に考えており、今のところは現状のままという方針である。今後の協議によっては変わっていく可能性がある。
- **委員** 可能性があると認識してよいのか。
- **市委員** その通りである。
- **会長** 3月以降も検討していく中で変わる可能性があるかもしれないということによいか。
- **市委員** その通りである。
- **会長** 行政側としては、誰の意見かということは理解したうえで、配置を含めて丁寧にまとめていっていると解釈したい。

2. スケジュール及び今後の進め方について

- **事務局** まちづくりは時間のかかるものであり、3月までに明確な結論を出すということは無理であり、市としても継続的に進めていくことを前提に、3月までに方向性を出したいと考えている。1月25日(火)に協議会を開催予定であり、今後のまとめ方については、会長・副会長と十分議論のうえ進めていきたいと考えている。また、委員会では、委員会の前に作業部会を開催しているが、協議会でもまとめの段階に入るにあたり、そういった会議を開催していきたいと考えている。今日いただいた意見、提案は継続的に議論していくことを確認し、まとめに入っていきたいと考えている。
- **委員** 「おもろいまち話 幻燈会と茶話会」というチラシを配布したが、緑町団地の建て替えの際にお世話になった延藤先生の講演会であり、まちづくりに興味のある人や地域の話の聞いてみたいという方はお時間があれば参加いただきたい。

会長より閉会挨拶。

閉会